

批評と紹介

西北第二民族学院・上海古籍出版社・

英国国家図書館編

英蔵黒水城文獻⑤

西田 龍雄

『英蔵黒水城文獻』第一巻から第四巻までが、二〇〇五年一月から八月にかけて刊行されてのち、昨年（二〇一〇）十月になって最終巻第五巻がやっと刊行された。編集方針は一向に変わっていないが、今回は最後に「叙録」として六十五頁にわたって全体の簡単な目録がついている。

この最終巻にはやや長い断片が含まれると期待したが、それも少なく、一九七〇年に筆者が当時の英国博物館で校訂復原した数種類の卷子本と『同音』『雑字』も残念ながら掲載されていなかった。今回は⑤に収められた断片を中心とするが、前回②～④の中で取り上げなかった関連する諸断片をも対象として、気付いた重要な誤りなどを前二回

と同様に指摘しておきたい。

1・3235-3235v④ p.59

編者は陀羅尼とするが実際は占卜書の残片である。表裏二枚は連続する。

「唯財ヲ捨テルトキ…ハ唯病ニ屈スルトキ…唯父母ノ占ヲ為ストキ…唯婚姻ノ占ヲ求ムルトキ…ハ唯行宿ノ占ハ□中ガ動カバ速ニ来ル。

種々中宮ノ和スルコロニ還ル月日ナリ」

この断片の存在はコズロフ本と関連して拙文「西夏語訳六十四卦と鍼灸書」『三笠宮殿下米寿記念論集』（刀水書房、二〇〇四）、五六九頁で触れている。

2・3505④ p.203

仏経とするが、左半分六行は興味深い内容を持っている。楷書体写本断片である。筆者は以前に紹介したことがある。

「Paṇu のメウ・ジクメ（無畏）師ノ処ニ伝ワル。其ノ時、吐蕃ノ中辺国ノ天子センダルマノ身ニ悪瘡ガ出タルタメ、通事リチュン獅子幢トナカルソン鳥面有（鳥ノ面ヲ持ツ者）二人ヲ遣シ「悪瘡治療要論」ヲ求メニ行カシム。リマ通事ハパプ国ニ至リメウ・ジクメ…（以下欠）」

残念ながら右半分の六行は全く別の内容をもっていて連続しない（西田『西夏文華嚴経Ⅱ』京都大学文学部、一九七六、三三三頁参照）。

3・3540④ p.230

六モシ月から朔一取因朔二愛因、

L.6 履龍諺影 餓貧殿統纒

阿濕隣合 二諭若七塵洗

ʔaŋ si ʔəŋ ʔu ndzia → Skr. Āsvalā (七月仲秋)

七モシ月

L.10 燼龍裘燼…迦哩底迦 kaŋ hi tifi kaŋ → Skr. kārṭtikah

八月 (季秋)

コズロフ収集文中にも十二縁生の西夏語訳は二種類含まれてゐる (No. 7166, No. 891)。共に写本であるが、前者は冊子装でやや乱暴な楷書体で書かれているが上下巻揃っている。後者は前部を欠いた卷子本で上巻のみが残る。両者共に漢訳文をかなり忠実に訳している。梵語十二ヶ月の名称の西夏文字はすべて揃って判明している。

6. 3603④ p.276

編者は仏経としているが、実際は『仏母大孔雀明王経』の訳文の断片である。周知のようになこの經典は王静如によって已に研究されている (『西夏研究』第一輯、北京、一九三二)。王静如が使ったのは、一九一六年に寧夏靈武県から出土したもので (木活字本?) 現在北京図書館に所蔵される。このスタイン本は言うまでもなく黒水城出土の河西写本である。体裁が異なるほかほとんど内容の異同はないが、一ヶ所書き誤りがあった。五行目□籠徽の□を北京

批評と紹介 西田

蔵本では褌袋囊となり、冠が誤っている。漢訳卵瓶罰に当たる。漢訳では梵語を音写するがチベット語訳では意識しており、西夏語訳もそれに倣っているため、西夏文字の意味の決定に大きい役割を果たしている。たとえばこの断片の一番始めに出て来る循纒徽は漢訳「死王所罰」にあたるが、纒は平声八十四韻に属し、war と読み『文海』では「天」と訳され、『同音』では「夭折」とされているが、その意味のほかに、チベット語 *hchi bdag* に当る死魔 (四魔の一つ) のことを指すらしい。

そのほか騰羶徽嗅者罰 *stul-pohi chad-pa* 布单那罰爰纒徽身臭罰 *lus-stul-pohi chad-pa* 羯吒布单那罰などがあって同じ臭が二称に訳されている。布单那は梵語 *putana* 臭者に、羯吒布单那は梵語 *kata-putana* 極臭鬼に当る。

『孔雀明王経』は詳しく研究すべき經典である。必ず面白い結果を期待できる。

7. 3620④ p.285 3620v p.286

編者は前者を「金剛王亥母供修順論」とし、後者を仏経と認めるが共に根拠は示されていない。前者は表題がほとんど欠けており最後の二字が辛うじて作順と読める。全体で十行が残る。幸いにしてこの3620はコズロフ本 [CG261 No. 6833 「金剛王亥母處食施供順要論」(一枚残)] と合致する。「凡そ供修者ヲ手テ供養ヲ為サント欲スレバ、白月朔十日

第九十三卷 五七

若クハ黒月朔十日ナド特別ノ善キ日ニ金剛王亥母像等ノ御前ニテ得タル所ノ供養ニ何ヲ用イルカニヨリ食施等ヲ準備シ、御前ニマガリア（獮猪脧）一ツヲ置キ…（略）…百字呪ヲ一遍誦ミテ後、om vajra mu 呪ヲ誦エ、かの仏会等本宮ニ還リテ念シテ食施ヲ淨処ニ捨テルベシ」最後のところはスタイン本には欠けている。尾題のあと「金剛王亥母ニ随イ略手供養作順」の題目のみがある。二つの經典が連書されているのである。3620はそれに該当する可能性が大きい。

スタイン本中に「金剛王亥母…」と書かれる断片は数種類残っている。3349④p. 121「金剛王亥母供修要論」は九行を残す卷子本写本残卷であるが、中央（四行目と五行目）に二つの経題が連書されている。

L.4 金剛王亥母之供修要論 終

L.5 金剛王亥母ニ随イ面手等澡順要論

L.6 金剛王黙有母ニ敬礼ス

L.7 凡ソ善男子ト善女人ハ早暁ニ起キテのち衣服ヲ着ス時…

金剛王亥母…とつく經典は多種類あつて、いずれも藏文からの重訳であると考え得る。コスロフ本の中にも多く含まれており、たとえば TG254, No. 6489 は①供修順、②面手洗澡、③飲食受持、④睡眠定作の四種の要論を連書している（楷書体写本）。またスタイン本 2823-2824② p. 240 の小断片ながら「金剛王亥母供修順要論」と認め得る。

8・3622④ p. 287

編者は韻書とするが、その判定は当たらない。音韻学書とすべきであろう。大型の写本で九行分が残っている。問答形式をとつていて、西夏語音韻論の基本問題を論じている有用な文献である。もし全体が整つていたならば西夏語の音韻研究に対して大きい貢献をしていたであろう。しかし内容が素直ではなく、理解に苦しむところがある。類する文献としてはコスロフ本に一点ある。筆者は仮題として、スタイン本を「小学問答集」、コスロフ本を「西夏切韻学綱要」と名付けている（拙著『西夏語研究新論』一九九八、八〇頁）。

問フ、平上去入四声中、去声韻無シトハ如何。答フ韻ハ多字ト為ルト雖モ韻無キ故ニ平ト近キ韻ヲ□攝スルモノ也。

百五韻（複數）平声九十七、上声八十六共二百八十三韻「百」五十六ハ二各同導、「他ハ」独韻七十八ナリ 終

五音ヲ為シ七字ヲ集メルハ、切りテ韻ヲ取ル門也、是ヲ和シテカエル也「割注」七字トハ唇、舌、牙、齒、喉、流風等ノ字ヲ□□集メル也。

五音ヲ為シ八字ヲ集メルハ韻ノ重軽ヲ不…有ル故ナリ「割注」八字ヲ集メルトハ唇、舌、牙、齒、喉、流風ノ二字、独韻ノ如ク八字…（以下二行略）。

6・3700④ p. 360

仏經としているが、『無常經』の下半部にあたる。上半部は3745の番号が与えられている。⑤ p. 37、つまり3745と3700は上下に結合すべきものである。このことは已に拙著『西夏文華嚴經I』、一九七七、十頁注二〇で述べている。蝴蝶装で中央に丁数がつき第三葉に略題不常經と刷られていたので『仏説無常經』（義浄訳大正八〇一）の訳文であると決定できた。丁数を示すと、こゝでは p. 360上左は四（左）、上右は五（右）、p. 360下は二、p. 361上は三の順に並んでいる。

現存する形態は異なるが、内容は同一の經典である例をあげておこう。

10・2741③ p. 213 3211④ p. 48 3715⑤ p. 7

2741v は下方三分の一を欠いた刊本（折本）断片であるが三行目に題目があつて、崩れてはいるが、「普賢広大願王清浄頌」と読める。そして四行目には極樂加讚頌とある。その内容は3715（刊本十二行残）及び3211（刊本折本六行残）と合致する。編者は3211を「金剛般若波羅密多經」としているが明らかに誤りである。三者を対照すると、2741は2741vに続く部分であることが判明する。そして3211は「普賢長頌終」となっていて他の二点とは異なる版であった。

11・3720⑤ p. 13-14

唐長国師光殿衆宮中住、爾時衆人仏義問二十五問答は、蝴蝶装刊本で三枚半が残る。もとは丁数がはっきりと読めて正しい順序に並んでいたが、こゝでは誤って配置されている。正しくは p. 13上は第三葉、下は第二葉、p. 14上の左は第一葉左、右は第四葉右の順である。筆者の經典目錄（一九七〇）ではまだ内容が同定できていなかったが、コズロフ本との関係を指摘していた（1996）。禪籍であることは明らかであったが対応する漢籍名が詳らかではなかった。二〇〇九年末になってロシアのソロニン氏の論文によって、その内容が同定され隋新瓔珞（*thon shon*）は唐忠国師と読むべきことが判明した。Solomin, K. J. "The Ch'an Teaching of Nanyang Huizhong (-775) in the Tangut Translation" 『西夏語文与華北宗敎文化』国際學術研討会中央研究院・仏敎大學編、台北、二〇〇九。

12・3815⑤ p. 165

編者は1偈語2藏文題記としているがとんでもない。藏文題記ではなく、ka kha ga...等藏文アルファベット十一字を並記しているだけである。

13・3858⑤ p. 180 孝経注

孝経の西夏語訳本には已に述べた如く、コズロフ本とこのスタイン本がある。共に行書体で書かれていて判読はむ

つかしい。両本を比べて見ると種々の相違点がある。①表題を見ただけでコズロフ本には新訳とつき、改訳本であったことがわかるほか、呂惠卿の序文がついていてその注釈本であると理解できる。②コズロフ本(冊子体)は完本であるが、スタイン本(卷子本)は第八章から残り前半を欠いている。③共に注がついているが体裁が異なる。コズロフ本では注は本文の後に一字落として書かれているのに対して、スタイン本は本文に直接つけて小さい文字で書いている。割注の形をとっていない。④共に十八章に分かれるが十二章以下の章名の訳に異同がある。大きく相違するところをあげておこう。

コズロフ本 緇穢散散 翫穢散散 併穢散散 夙

スタイン本 緇穢散散 帝侍章品十七(親易章品十八)

漢文 (感動品第十八)(王侍品第十七)親亡品第十八

一 九七〇年に当時の英国博物館から戴いた写真と照合してみ、本書一八頁には尾題を含む最後の四行分が欠落していることを発見した。これは大きい手落ちと言わざるを得ない。その部分を訳しておく。

「兆ヲ□□注…生キ住ムタメニ孝ノ本ヲ備エ終リタリ、死者ノ礼義 孝経序一卷終」

コズロフ本は初め一九九六年にモスクワの科学出版社から刊行された『西夏語訳漢文典籍』に含まれたが、今は『俄蔵黒水城文獻』十一(上海古籍出版社、一九九九)に収められている。グリンステット『西夏文字分析』所収の孝経はコズロフ本の研究である。楷書体を書き添えていて有用である(Eric Grinstead, *Analysis of the Tangut script*, studentliteratur, Lund, 1972)。

14・3838⑤ p. 148

編者は、「五魔法」と称しているが、この名の経典は存在しない。四行目にある偈句の表題を訳したもので、拙訳すれば「五鬼発病法」となる。この表題の前に五言二句が書かれている。

坤艮双ツガ集リ土 震坎□(離火)。

本文を訳すと、

水鬼ハ火ヲ断チ水ト戦ウ中、(金鬼ハ木ヲ断チ身ニ病有リ

木鬼ハ土ヲ断チ痔ガ出ル中、土鬼ハ水ヲ断チ盗欺アル中、

火鬼ハ金ヲ断チ□ハ身ニ有リ、 供神ハ常ニ住ミ死亡スル□

(以下略)

のようになるが、その真意はよくわからない。

15・3870-3870⑤ p. 200-201

六祖大師法宝壇経としているがどのようにして決めたのか。大きい薄い紙に書かれた写本の残巻で中央の部分を表

(3870v) として左右両端を裏面(3870)に折り込んだ形になっている。両端の部分は左右とも崩れているが、全体で三十二行が残る。行間に罫が引かれ一行に十七字が上手な楷書体で書かれている。3870vの九行目から始まって3870に及び3870vの八行目に至る。筆者のメモには、一九七四年十月十七日にこれが六祖大師法宝壇経のやや長い残巻であると判明したと記録している。その全文の訳を『西夏文華嚴経I』(一七頁)の中で示した。

16・3907-3908^⑤ p. 269-270

これは『文海宝韻』ではない。『文海宝韻』はコズロフ蒐集品中にあり、所属韻字のみを書き出し並べた写本で、字形の分解や注釈はほとんどついていない。かつてネフスキが利用し、一九六〇年のカタログにも載っていたがその後姿を消した。一九九〇年に再び発見された。その経緯については拙著『西夏王国の言語と文化』(岩波書店、一九九七、一一〇頁、注二)を参照されたい。その3907-3908はコズロフ本に同種のものがあって、筆者はその存在を『韻書残巻』とよんで紹介している(一九九六、のち『西夏語研究新論』所収)。

卷子本經典の裏面を使って行間の空白に書き入れられた写本であるが、現在は「音同文海宝韻合編」の書名がつけられ、その二十数枚の残巻は『俄蔵黒水城文獻』七(一九

九七)に収まっている。このスタン本はそれを補う全く同種の残巻二枚である。

文字の配列は『同音』新版の順序と一致し、一字一字に『文海』と同じように字形の分解と意味の注釈と反切がつけられている。『文海』と異なる点は『同音』の注字も加えていることもう一つは平去声、上去声といった新しい声調類の指摘があることである。この声調については西田「西夏文字新考」(『東方学会創立五十周年記念』『東方学論集』東方学会、一九九七)を参照されたい。裏写りが激しく行間からはみ出したり、大小様々の大きさで書かれていて甚だ読みにくいのが、この上ない重要な情報を伝えている。

3908は正歯音類の最後の部分と独字の始めに該当し、3907は流風音類独字の部分に当たる。

近年コズロフ本の研究は、韓小忙著『同音文海宝韻合編整理与研究』(中国社会科学出版社、二〇〇八)となつて刊行された。コンピュータで固めた感じの書であるが誤りが少なくない。

なお、2424v^③ p. 123も同じ種類の韻書残巻の一部であり、重唇音類の最後と独字の始めに該当する。小断片ながら貴重である。

17・3919 (1-6) ^⑤ p. 308は、貞観政要(771) 3919 (7-71) は仏経とする。共に版本(冊子体)の中央部または下部の

みを残す断片である。丁数八を含んで全体はかなりの分量になる。太宗が屢々登場し王珪の名や魏徴の名も出て来ることから、一九七〇年代に筆者はこれを貞観政要の訳であると想定した。この考えを当時ロンドンに滞在中の故W・サイモン先生に説明し、ご賛同を得た記憶がある。

編者は392bを二分し、後者を仏経とするのは、何を根拠としているのか見当がつかない。筆者は共に貞観政要の訳であると見ている。ただしこの西夏語訳は逐字訳ではなく、かなり意訳しているところが多い。

p. 313 上(善人ガ国ヲ為スコト)百年ニシテ然後、(欠)ヨリ錯乱ト離レ…徴曰ク此ハ小智ノ人(常人ニ当ル)(欠)

聖哲ニ在ラス…中、魏徴ニ曰ク…五帝三王ノ代ニ人ヲ易エズシテ(欠)帝道ヲ行エバ則チ帝ナリ。(政体篇第九章)

p. 316 太宗黃門侍郎(丞相ト訳ス)王珪ト宴坐シ曰ク…(欠)傍ニ侍シ立ツ。本、呂江ノ王(璩)ノ姫ナリ(繼^{392b}ハ姫ニ当ル漢語ノ借用カ)(欠)内宮ニ住ミ中ニ入ル(欠)王ハ不義ヲ為スニヨリ(欠)王珪曰ク臣管子文ニ(斉の桓公)郭ノ国ニ之キかの国ノ父老人(歳太キ人ト訳ス)(欠)…故ニ謂ク我ハ、父老人曰ク…也。桓公曰ク是ノ父老…

p. 316 …失フ今是ノ婦人、尚傍ニ在リ(欠)是トナサムト謂フ、我ハ若シ非トナサバ(欠)継ガズ汝ハ云何ニスベキカ。太宗喜ヒ速カニ美人ヲ親族ニ還ラシム。(納諫篇第一章に

当たる)

18・392a⑤ p. 353は番漢語詞対訳としてしているがこの番語とは一体何語を指すのか。筆者は以前から注目していたが、未だ結論に至っていない。

漢字で転写するが特別な言語である。チベット・ビルマ系言語ではない(?)。つぎに代表的な対照例を記しておく。

不明語 阿罵 沆諾 舉 塞約 吉礼思 骨觀寺
漢語 手 脚 甕 刀子 氈 婦人

類似の文献はコズロフ蒐集品中にも他の出土品中にも発見できない。

19・392a⑤ p. 363は妙法蓮華心一卷と記されている。これはやや太い楷書体写本であって、表題のほか十行が残っている。同じ經典はコズロフ本にもあつて、照合すると、スタイン本は392aからつぎの392b六行につづくことがわかる。編者は392bを仏経としている。

「その時、釈迦牟尼仏は、王舎城の耆闍崛山中に住みたまう。大菩薩摩訶薩：仏の説法を聞きたまう。梵籙

窠籙」
スタイン本ではこの「聞く」籙の字を菴(助詞)に書いている。聞くと菴は西夏語では同じ音節^{392b}(上一〇)であつて、書き誤つたと言えるし、当て字を使つたとも解釈

できる。

以上、巻一から巻五を通じて、西夏文の同定作業には新しい成果は全く認められない。唯だ仏経とするものが多数に残されていて、全点解明には程遠い感じである。編者が西夏研究の現状に疎いことに加えて第一に原文をよく読んでいない欠点が如実に現れている。また先学の研究結果のみを黙って使っているのも、甚だ遺憾である。最後にインド国家博物館（ニューデリ）所蔵のスタイン将来西夏文庫の早期公開を期待したい。なおスタイン蒐集本の同定作業には、松沢博氏の二点があることを付記しておきたい。一つは「スタイン将来黒水城出土西夏文庫に就いて」（前掲『西夏語文與華北宗教文化』所収、二〇〇九、台北）と今一つは「スタイン将来黒水城出土文献同定表」及び「ペリオ将来敦煌出土西夏語仏典目録再校」と題する未公開の草稿である。

註

- (1) 西田龍雄評『英蔵黒水城文庫①』（『東洋学報』第八七卷第三号、二〇〇五）。西田龍雄評『英蔵黒水城文庫②③④』（『東洋学報』第八八卷第四号、二〇〇七）。
- (2) 唐忠国師は、唐昌国師とするのが正しい。この論文以前に、ソロニン（索羅寧）は「西夏仏教著作《唐昌

批評と紹介 西田

国師二十五問答》初探」『西夏学』第二輯、二〇〇七、p. 127.を發表している。

(3) 『東洋学報』第八八卷第四号、四二頁。

(4) コズロフ本の一部五刑章品については、ネフスキーによる漢字をあてた訳文がある。石浜純太郎「西夏語訳呂惠卿孝経伝」『文化』第六号、一九五六を参照されたい。

(二〇一〇年六月、上海古籍出版社、上海、B4判、三八〇―六五頁)

※西夏文字フォントは『今昔文字鏡』を使った。

(東洋文庫研究員)